

Ⅲ. ブロック研修実施状況

ブロック研修の実施状況を共有する資料として、各ブロックの研修毎の概要をまとめた「実施報告書」、研修運営を通じた問題点と改善策をまとめた「運営改善報告書」、受講生のアンケートを集計した「アンケート結果」を作成した。

1. 北海道東北ブロック

(1)実施報告書

林業成長産業化構想技術者育成研修 ブロック研修実施報告書(北海道東北ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和元年10月1日(火)～10月4日(金)
研修会場 アイーナ いわて県民情報交流センター(岩手県盛岡市)
現地実習 岩手県岩手郡雫石町大字橋場・御明神字取染山国有林724林班外

- 2 研修受講者数:24名 [男性:24名 女性:0名]

(道県職員4名、森林管理局職員13名、森林整備センター職員1名、民間事業者6名)

北海道	2名	岩手県	1名	宮城県	1名	森林管理局	13名
森林整備センター	1名	民間事業者	6名				

途中欠席者数 0名

3 研修実施概要

○予定どおりカリキュラムを修了

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目は、開講式において東北森林管理局森林整備部長が挨拶した。オリエンテーションの後、講義に入り、中嶋企画官および小原講師により実習地の説明が行われ、「森林資源把握・路網配置計画演習」では、QGISでの演習地の概況把握の後、予定路線のラフスケッチ(手書き)を行い、受講生が持参するタブレット等で使用するアプリの説明と翌日の踏査ルートを確認をした。最後に、ふりかえりシートを記入し、翌日の研修内容の説明をし、1日目を終了した。

・2日目は、雫石町の国有林にて二つの現地実習、①スギ林に対する森づくり構想の検討(「森づくり検討」)、②路網整備の調査等(「森林現況の把握・路網配置の調査」)を行った。現地に到着して、まずは太田講師が「地域特性に応じた森づくりの構想(講義)」として、この後の実習の際に判断材料となる、皆伐あるいは間伐の判断基準や方法、林分密度管理図の解説等を行った。「森づくり検討」は、作業道を挟んだ二つの小班を各班で選択し、調査・構想の検討の後、発表を行った。午後の「森林現況の把握・路網配置の調査」では、小原講師による現地実習のポイントの解説が行われた後、各班ごとに約1時間の踏査を行った。現地踏査終了後にこれらのデータのまとめを行うため研修会場へ戻り、各班毎に路線整備の検討をした。

・3日目は、住友林業の坂口講師からFRD操作に関する講義ならびに演習の前提となる東北地域の木材産業状況について、成田企画官から情報提供が行われた。その後、各班とも2日目のデータのまとめと発表用資料の作成を行った。

・4日目は2日目の路線設定および3日目の現地検討を材料として、『地元首長に対し、林業技術者集団からの対象地区林業の成長産業化戦略』に関するプレゼンテーションを各班ごとにし、質疑応答と講評を行い全日程を終了した。

○今回の研修で工夫したこと

・研修を通し、各班に森林管理局(北海道および東北)のサポート者を配置し、班の中に席を置いて進行等の補助を行った。

・2日目の現地に於いて30分の講義「地域特性に応じた森づくりの構想」を実施したが、ブルーシートを敷いて受講生を着座させ、講義に集中できる環境を整えた。

・「森づくり検討」は、作業道を挟んだ二つの異なる林分を対象地とし、各班で選択し、調査・構想の検討を行うことで、多様な構想が作成された。

・現地での各班の発表の際、発表用シートをバスの車体に磁石で張り付けることによって、発表場所の選定や準備にかかる時間を省略した。

・QGIS等操作の精通者を配置(局・署職員)し、演習が円滑に実施されるようサポートした。

4 記録写真



森林整備部長挨拶:1日目



実習地および演習手順の説明:1日目



森林資源把握・路網配置計画演習 QGISでの演習地の概況把握の様子:1日目



地域特性に応じた森づくりの構想:2日目



森づくり検討 踏査の様子:2日目



森づくり検討 発表の様子:2日目



森づくり検討 講評:2日目



森林現況の把握・路網配置の調査 現地検討の進め方等の説明:2日目



森林資源利用構想演習:3日目



森林資源利用構想演習 各班検討中の様子:3日目



森林資源利用構想演習 発表の様子:4日目



集合写真

(2)運営改善報告

研修中の実施記録、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる。

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修運営・進行	<p>①資料の配布タイミングについて、一部不明確な点があり、もたついてしまったことがあった。</p> <p>②演習地の検討において、国有林をフィールドとしているが構想は民有林を想定して作成するとの事前設定の周知をしていなかった。</p> <p>③3日目は全ての班の受講生が発表資料作成の作業に追われ、議論時間があまり取れていなかった。受講生からも「時間が足りない」との意見が多くあがった。</p> <p>④3日目に「最長19時まで作業可能」と事前に周知したことで、全班が19時まで作業を行った。</p>	<p>①事前に進行役と配布タイミング等を打ち合わせしておく。</p> <p>②受講生が戸惑わないよう、事前周知する。</p> <p>③時間配分および演習内容について検討の余地がある。</p> <p>④事前に延長可能時間は周知せず、原則はスケジュール通りに終わるよう心がけてもらい、やむを得ない場合に、徐々に作業時間を延長することとする。</p>
(設備、備品) 研修会場	<p>①空調の効きが悪く、室内が暑かった。</p> <p>②USBメモリを用いてコピーできるコピー機が館内に1台しかなく、またそのコピー機が故障していた。</p>	<p>①1日目に空調の効きが悪いことが判明したため、2日目以降は空調の温度をあらかじめ下げしておくよう管理事務所に連絡しておくなどの対策をとった。</p> <p>②館内周辺を含めてUSBを用いてコピーできるコピー機をリサーチしておき、難しい場合はコピー機のリースを検討する。</p>
(移動、雨天・安全) 実習現場	<p>○「森づくり検討」各班発表の際に、発表する班以外の受講生はブルーシート上に着座したが、直射日光が当たり集中できない受講生がいた。</p>	<p>○発表時は林内等、日陰の場所の設置を検討する。</p>
運営体制	<p>○事務局内の人員配置が不足する局面があった。</p>	<p>○事前に人員配置・役割分担等を綿密に打ち合わせる。</p>
その他	<p>○演習時の各班のサポート体制。</p>	<p>○サポート講師は4日間通しての配置が望ましい。全日程通して配置することを検討する。</p>

(3)アンケート結果

回収率:24名/24名(100%)

I 森林総合監理士関連の研修受講経験

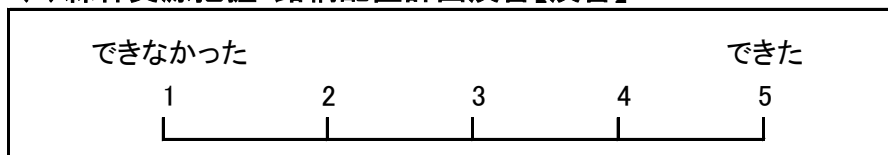
- 1 : 技術者育成研修 (2 名)
- 2 : 准フォレスター研修 (3 名)
- 3 : 受講経験なし (18 名)

II 森林総合監理士資格の有無

- 1 : 森林総合監理士 (4 名)
- 2 : 資格なし (20 名)

III 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

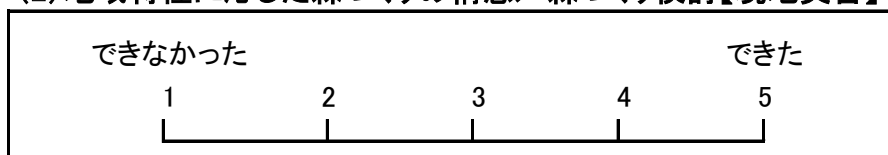
(1)森林資源把握・路網配置計画演習【演習】



平均: 4.2

- 1 (0 名)
- 2 (1 名) 班員の助けがないと路網を計画することができなかった
- 3 (3 名) メニューが多く操作方法を思い出しきれなかった
- 4 (11 名) QGISで情報を見ながら路網選定をすると短時間で行えることが分かった
- 5 (9 名) 様々なオープンデータ等を活用し、計画地の下調べをしておくことが大事だと感じた

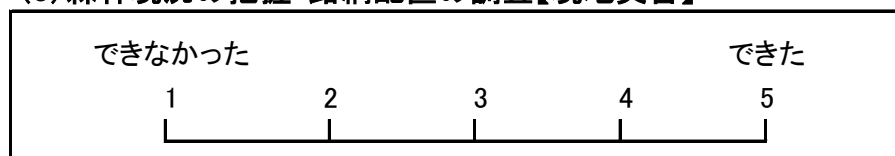
(2)地域特性に応じた森づくりの構想／森づくり検討【現地実習】



平均: 4.1

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (6 名) 各班で施業方法の特徴的な発表があり有意義だった
- 4 (9 名) 密度管理図等の活用について再認識した／現地確認する重要性が分かった
- 5 (8 名) 路網、伐採、植栽等、様々な視点で施業を考えることが大事だと分かった

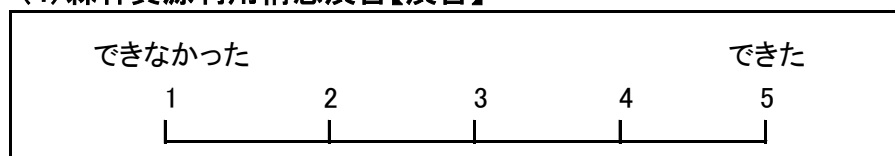
(3) 森林現況の把握・路網配置の調査【現地実習】



平均：4.2

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (3 名) 現地踏査は大切だと改めて感じた／山を歩いて周りを見る時間がもう少し欲しかった
- 4 (13 名) 土質、傾斜角を見ることが大事だと分かった／踏査で路網配置のイメージができた
- 5 (8 名) 様々な視点から現地を見ることが大事だと分かった

(4) 森林資源利用構想演習【演習】



平均：3.4

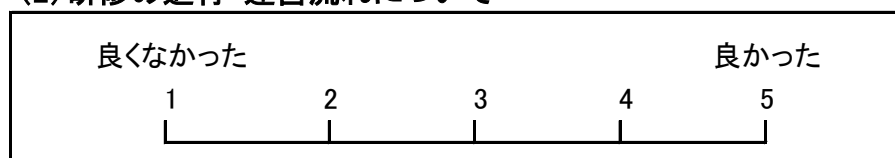
- 1 (1 名) 一人ではなにもすることができなかった
- 2 (1 名) 自分の考え、意見等をもっとうまく伝えたかった
- 3 (11 名) QGISの利用に手間取った／時間不足であまり構想を詰めきれなかった
- 4 (7 名) 成長構想の話し合い作成が有意義だった／役割分担の重要性を改めて認識した
- 5 (3 名) 各班の発表により新たな視点を知った

IV 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1) 研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

- 1：できていた (23 名)
- 2：できていない (1 名) 事前資料は読んだが、ガラケーのためアプリが入れられなかった

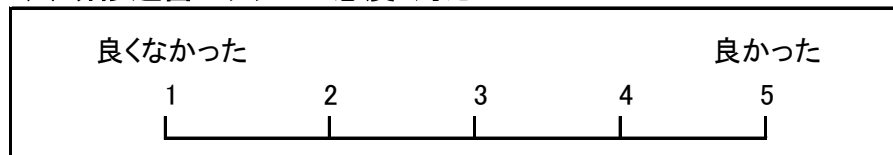
(2) 研修の進行・運営流れについて



平均：4.7

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名) 現地の昼休みが1時間確保できないこと、3日目の終了が19時に延長したことが不満
- 4 (5 名) 一部時間配分が厳しい部分もあったが、おおむね十分だった
- 5 (17 名) 時間通りスムーズに進み良かった

(3) 研修運営スタッフの態度・対応について



平均：5.0

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (0 名)
- 4 (1 名)
- 5 (22 名) 4日間気持ちよく過ごすことができた

(4) 今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・ ICTに関する継続的な研修（ベテラン、初心者が集う研修）
- ・ QGISの操作に関わるサポート、研修
- ・ ドローン等のICT機械を使用した研修
- ・ 地質に関する研修
- ・ 森林土木寄りの研修。土木分野の弱さを感じるため
- ・ ブロック研修を補完する形で都道府県レベルの研修会
- ・ 職場体験のようなものが研修にあってもよい（異業種の方の新鮮、斬新なアイデアを吸収する）

(5) その他、自由に感想をお聞かせ下さい。

(研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。)

- ・ 自分たちで計画・調査・まとめ等とても充実した研修だった
- ・ 他道県の方と意見交換を重ねながらの研修で非常に勉強になる部分が多かった
- ・ 受講生の皆さんが積極的に参加していたので良い刺激になった
- ・ 時間外に行われた外部講師のニュージーランドの事例は、普段見聞することのない番外の事例であり参考になった
- ・ ICTを活用することにより、若い人たちに興味を持ってもらい、ひいては林業の従事者も増え活性化に繋がると感じる
- ・ 行政として目指す方向がより明確になった
- ・ 「地域特性に応じた森づくりの構想／森づくり検討」が印象に残った
- ・ 外部講師、林野庁講師の講評が印象に残った
- ・ ソフトの処理に時間がかかるような演習は時間配分を多めにみた方がよい
- ・ 構想を作成する区域、現地踏査する区域、FRDで設計する区域がみんな違っていて分かりづらかった。最初に図面等で説明してもらえればなおよいと思った
- ・ 構想作成・発表時に誰を相手に想定しているかが明確でなく、各々バラバラで戸惑った
- ・ プレゼンの目標は予め設定を明確にしてほしかった

V 林業成長産業化構想技術者育成研修Ⅱ(ブロック研修)の評価

40点未満	(0 名)	
40点台	(0 名)	
50点台	(1 名)	夢のある成長産業を意識したが自身含め利益に繋がる意見が出なかった
60点台	(0 名)	
70点台	(0 名)	
80点台	(6 名)	有意義で考えることも多く時間が短く感じた／踏査・演習時間不足
90点台	(9 名)	QGIS操作に皆苦労した。学ぶ時間がほしい／構想作成時間が短い
100点	(8 名)	班全員で考え、一人ひとりが発表する研修スタイルが良かった

平均： 91 点

2. 関東ブロック

(1)実施報告書

林業成長産業化構想技術者育成研修 ブロック研修実施報告書(関東ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和元年10月29日(火)～11月1日(金)
研修会場 利根沼田森林管理署(群馬県沼田市)
現地実習 群馬県利根郡川場村川場国有林、群馬県沼田市根利国有林

- 2 研修受講者数:8名 [男性:7名 女性:1名]
(県職員1名、森林管理局職員4名、民間事業者3名)

群馬県	1名	森林管理局	4名	民間事業者	3名
-----	----	-------	----	-------	----

途中欠席者数 0名

3 研修実施概要

○予定どおりカリキュラムを修了

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目は、開講式において、林野庁中村対策官より挨拶後、オリエンテーションを行った。林野庁中村対策官及び利根沼田森林管理署三枝企画官より「演習・実習の手順と説明」が行われ、続いて「森林資源把握・路網配置計画演習」でQGISにて演習地の現況把握や予定路線のラフスケッチ等を行った。

・2日目は荒木講師による「地域特性に応じた森づくり構想」の講義後、貸切りバスを利用し、川場村内の国有林へ移動後、現地演習を行った。三枝企画官より現地の概要説明が行われた後、班ごとに分かれ、「森づくり検討」の踏査・検討の後、調査データや目標林型等の発表を行った。次に、沼田市内の国有林へ移動し、前日に作成した路線計画案、林分状況に応じた森林資源利用構想や作業システム等について現地確認・検討を行った。また、途中のポイントで、小原講師より地質等についての説明が行われ、受講生は熱心に耳を傾けていた。

・3日目は、前日午後の現地演習を踏まえ、班ごとにQGISやFRDを使用して林道の路線設計や事業計画書を作成し、林業成長産業化に資する地域構想の検討・プレゼンテーション資料作成を行った。

・4日目は班ごとに発表・ディスカッションを行った。班ごとに発表、質問を行い、局サポート等からも質問があり、活発な意見効果が行われた。最後に、小原講師・中村対策官による講評及び補足説明が行われ研修日程を終了した。

・台風19号の災害対応等から、当初予定参加者数の約半分8名・2班編成となったが、受講生同士、活発な意見を交わすことができた。

○今回の研修で工夫したこと

・各班に23インチモニターを設置し、効率的な研修会の実施ができた。

・現地演習地図や現地状況写真等を模造紙サイズに拡大印刷し、講義及び現地演習で受講生に理解しやすいよう掲示した。

・2日目の現地実習におけるバス移動に際し、バスの運行中に複数の無線を要し、地域情報や演習地情報の説明を行い、共有ができた。また、現地実習後の帰りのバス内で、荒木講師より、午前と午後の実習地の違い(地形や地位の状況や演習地の立木の成長状況など)を考慮し、そういった状況を踏まえて再造林を想定した場合の、下床植生状況や獣害対策も視野に入れた構想なども検討する必要性の説明をミニ講義的に行った。

・3日目グループワークを円滑に進めるため、QGIS操作演習に渋川広域森林組合高橋氏を操作サポートとして招きスムーズな演習が進められた。

4 記録写真



開講挨拶: 1日目



オリエンテーション: 1日目



荒木講師による「地域特性に応じた森づくり構想」講義: 2日目



森づくり検討現地実習: 2日目



森づくり検討現地発表: 2日目



森林現況の把握・路網配置の調査: 2日目



森林現況の把握・路網配置の調査: 2日目



QGIS及びFRD演習: 3日目



プレゼンテーション資料作成演習: 3日目



プレゼンテーション・ディスカッション: 4日目



プレゼンテーション・ディスカッション: 4日目



講評: 4日目

(2)運営改善報告

研修中の実施記録、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる。

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修運営・進行	<p>①2日目の現地実習時の踏査や調査などに時間がかかり、以降のスケジュールが遅れた。 ②3日目のグループ演習に時間がかかり、この日の研修終了時間が約60分オーバーした。 ③全体を通して、研修内容に対し時間が短く、スケジュールがきつかった。</p>	<p>①午前と午後の演習地の距離を考え、演習地変更も検討が必要ではないかという意見があった。 ①②スケジュールの確認管理の徹底を行う。 ③余裕をもったカリキュラム検討が必要。</p>
(設備、備品)	<p>①講義時に多々マイクの調子が悪かった。 ②現地演習発表時使用のマジックを忘れ、近くの森林組合へ借りに行った。</p>	<p>①事前にマイクの調子を確認しておく。また、新品の電池を用意しておく。 ②局担当者・ブロック事務局で事前に確認する。</p>
(移動、雨天・安全)	特記事項なし。	特記事項なし。
運営体制	特記事項なし。	特記事項なし。
その他	特記事項なし。	特記事項なし。

(3)アンケート結果

回収率:8名/8名(100%)

I 森林総合監理士関連の研修受講経験

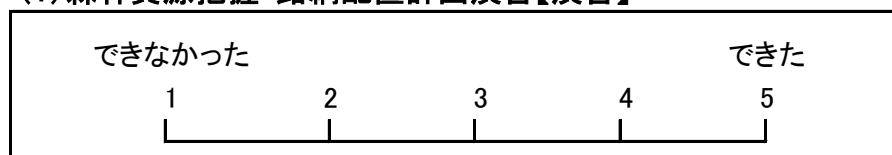
- 1: 技術者育成研修 (0名)
- 2: 准フォレスター研修 (0名)
- 3: 受講経験なし (8名)

II 森林総合監理士資格の有無

- 1: 森林総合監理士 (1名)
- 2: 資格なし (6名)

III 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか?

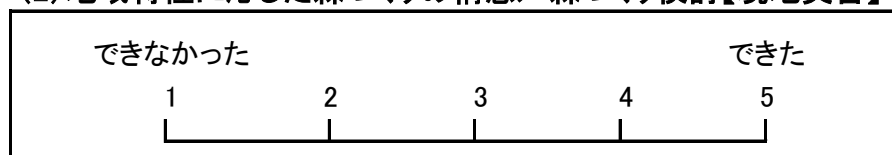
(1)森林資源把握・路網配置計画演習【演習】



平均: 3.4

- 1 (0名)
- 2 (1名) QGISの習熟が必要。紙図面とパソコン画面の照合が難しい
- 3 (4名) 現況把握をふまえ、どのように道を入れていくか考えることができた
- 4 (2名) QGIS等、分かりやすく説明していただき理解できた
- 5 (1名) QGISの使い方がある程度分かるようになってきた

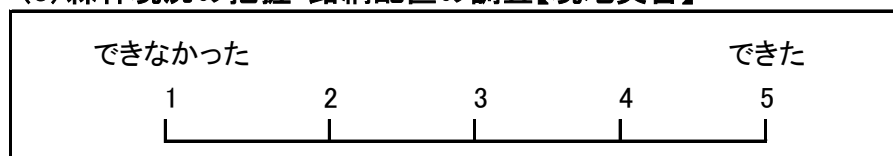
(2)地域特性に応じた森づくりの構想／森づくり検討【現地実習】



平均: 3.6

- 1 (0名)
- 2 (1名) 現地実習地にいるうちに、当初の目的を見失ってしまいまとまらなかった
- 3 (3名) 山に入り、蓄積等現況を判断するポイントが分かった
- 4 (2名) 地位と地利から考える、蓄積が大切等、普段考えていない視点を教わった
- 5 (2名) 感覚的に森林現況を把握することは少なく、刺激的であった

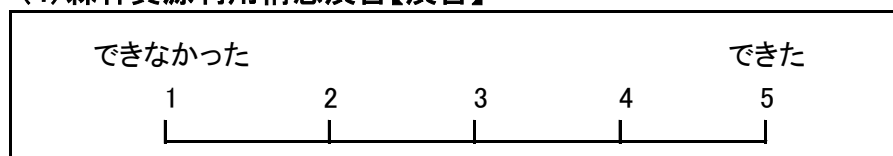
(3) 森林現況の把握・路網配置の調査【現地実習】



平均：3.4

- 1 (0 名)
- 2 (1 名) 難しい用語が多く、苦勞した
- 3 (4 名) 洗越工の説明が良かった／周辺施設が住宅の状況により配慮が必要であると分かった
- 4 (2 名) 地質の講義など大変ためになった
- 5 (1 名) 図面で見た内容を目視で確認でき、イメージとのズレも把握できた

(4) 森林資源利用構想演習【演習】



平均：3.1

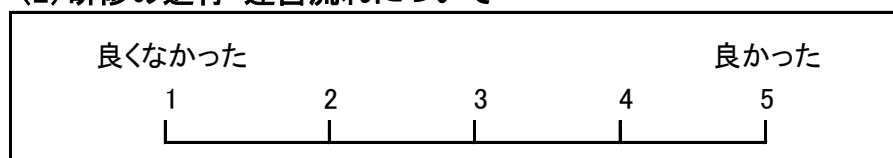
- 1 (0 名)
- 2 (3 名) 業務で見慣れていない資料や分野を理解し考察することは難しい／時間が足りない
- 3 (3 名) 短い時間のなかで構想を立てまとめていくのが、知識や経験不足を感じた
- 4 (0 名)
- 5 (2 名) 色々な立場での考え方が勉強になった

IV 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1) 研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

- 1：できていた (7 名)
- 2：できていない (1 名) 現地実習での準備で当日知ったことがあった

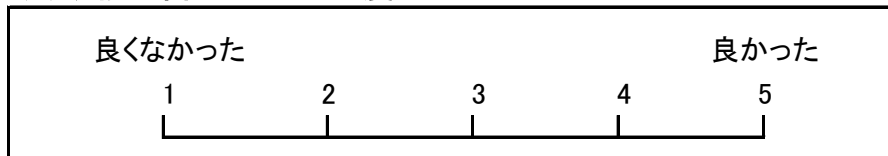
(2) 研修の進行・運営流れについて



平均：4.1

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) 限られた時間内で発表するということが今後仕事をしていくうえで勉強になった
- 4 (3 名) 研修内容・進行が4日間でうまく連結されていて一貫した研修内容だった
- 5 (3 名)

(3) 研修運営スタッフの態度・対応について



平均：4.6

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (0 名)
- 4 (3 名) 丁寧に分かりやすく対応していただいた／とても親切だった
- 5 (5 名)

(4) 今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・ QGIS の使い方をもっと詳しく教えてくれる研修
- ・ 木材販売のマーケティング
- ・ 路網を主とした ICT 技術だけでなく、森林整備や林産事業での ICT 技術の活用研修

(5) その他、自由に感想をお聞かせ下さい。

(研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。)

- ・ 現地に行くバスの中でも地域の特色などの説明があり、非常に良かった
- ・ 国・民間等各方面の方と班で話し合い議論できる演習を続けていていただきたい
- ・ 森づくり検討は、地利、地位から森づくりを考えるのが勉強になった
- ・ 今まで考えなかった地質や洗越工等の考え方を得られてとても良かった
- ・ ニュージーランドの林業の説明が印象に残った
- ・ 森づくり検討や成長産業化構想のプレゼンは中央研修の内容からステップアップしすぎているように思った。自分の知識の偏りもあると思うが、このあたりの知識をもう少し教えていただけるとうれしい

V 林業成長産業化構想技術者育成研修Ⅱ(ブロック研修)の評価

40点未満	(0 名)	
40点台	(0 名)	
50点台	(0 名)	
60点台	(1 名)	スケジュールが少々タイトすぎる気がした
70点台	(1 名)	特にプレゼン作成の時間が足りなかった
80点台	(3 名)	3日目はもっと班で考え方を議論し共有できる時間がほしい
90点台	(1 名)	最後の演習でもう少し時間がほしかった
100点	(1 名)	

平均： 81 点

3. 中部ブロック

(1)実施報告書

林業成長産業化構想技術者育成研修 ブロック研修実施報告書(中部ブロック)

1 日程・研修場所 令和元年11月12日(火)～11月15日(金)
研修会場 下呂市民会館(岐阜県下呂市)
現地実習 岐阜県七宗町 七宗国有林1207林班外

2 研修受講者数:10名 [男性:9名 女性:1名]
(県職員6名、森林管理局職員3名、民間事業者1名)

富山県	1名	静岡県	1名	三重県	1名	森林管理局	3名
石川県	1名	愛知県	1名	滋賀県	1名	民間事業者	1名

途中欠席者数 0名

3 研修実施概要

○予定どおりカリキュラムを修了した。

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目は、開講式で川戸森林整備部長が挨拶。講師、アドバイザー委員、スタッフの紹介を行った後、研修の目的や演習手順および実習地の概要についての説明を行い、つづいて森林資源把握・路網整備計画として、QGISやFRDの講義および演習が行われた。

・2日目の現地実習においては、気温が低かったものの実習はほぼ順調に行われた。午前中の森づくり検討では、講師が受講生に対して現地の林分に関し問いを投げかける形で実習が進められ、受講生の質問も活発に行われた。またアドバイザー委員からもコメントが加えられた。午後の森林現況の把握・路網配置の調査では、遠望や現地踏査で新設路線の確認・修正が行われた。実習地のチャート(岩石)の解説も行われた。

・3日目は当日の日程説明、QGISなどを使った路網整備、森林施業の講義につづいて、前日に持ち帰った情報を整理・検討した。途中、プレゼンのまとめ方や地域の木材流通の講義も行われた。その後、班内で事業計画書作成と森林整備計画書作成の2グループに分かれて、発表資料の作成を行った。進行役からは、とりまとめプロセスの時間配分と進行管理も行われた結果、やや時間超過はしたものの、18時には2班とも作業を終えることができた。

・4日目は、日程説明の後、班ごとにスライドによるプレゼンテーションが行われた。班ごとに発表、質問、フィードバックシート記入を行った。今回は2班のために時間的余裕があり、質疑の内容が深められた。最後に中村対策官の講評のほか、アドバイザー委員からもコメントをいただいた。

・今回のブロック研修は全国で5番目に実施。天候にも恵まれ、また班の数が2班と少なめであったことやICTに手慣れている受講生もいたことから、時間のタイト感はあったものの、研修は予定どおり進行できた。

○今回の研修で工夫したこと

・現地実習では、豚コレラが終息していない状況もあり、終了後には長靴や車タイヤの消毒を行った。

・24インチモニターを各班に設置して、班員が演習内容を共有しやすい環境を整えた。

4 記録写真



開講式：1日目



講師等の紹介：1日目



現地実習の森づくり検討：2日目



現地実習の森づくり検討：2日目



路網配置計画の調査実習：2日目



森林現況の把握・路網配置計画の調査実習：2日目



森林資源利用構想演習：3日目



森林資源利用構想演習：3日目



発表の様子：4日目



講評の様子：4日目



アドバイザー委員コメントの様子：4日目



集合写真：4日目

(2)運営改善報告

研修中の実施記録、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる。

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修運営・進行	特記事項なし。	特記事項なし。
(設備、研修会場、備品)	①レンタルのプリンターを会場に設置したが、印刷速度が遅く、大量印刷に不向きだった。 ②朝の準備段階で研修資料の一部に抜けがあることに気づき、急遽対応した。	①印刷枚数が多くなる場合には、経費も考慮しながらできるだけ高性能なプリンターをレンタルするか他での印刷を検討しておくことが必要。 ②事前の入念なチェックが必要。
(移動、雨天・安全、実習現場)	特記事項なし。	特記事項なし。
運営体制	特記事項なし。	特記事項なし。
その他	①現地実習は現場で見ながら考えることができ重要な点だが、欠点はその点にあるものしか見えないこと。講義では色々なバリエーションが伝えられるため、本来なら講義で学び、現場を見て、さらに振り返ることが大切。 ②研修のゴール、プレゼンでは誰に、何をアピールするのが、受講生に十分伝わりきれていなかった。	①本来講義で話をする内容についても可能な範囲で実習の時間に取り入れて工夫を凝らしながら実践した。 ②研修中に何度か伝えておくことが必要。

(3)アンケート結果

回収率:10名/10名(100%)

I 森林総合監理士関連の研修受講経験

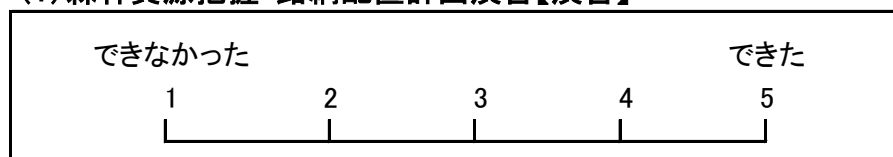
- 1 : 技術者育成研修 (2名)
- 2 : 准フォレスター研修 (2名)
- 3 : 受講経験なし (6名)

II 森林総合監理士資格の有無

- 1 : 森林総合監理士 (3名)
- 2 : 資格なし (7名)

III 本研修のねらい・内容をそれぞれの程度理解できましたか？

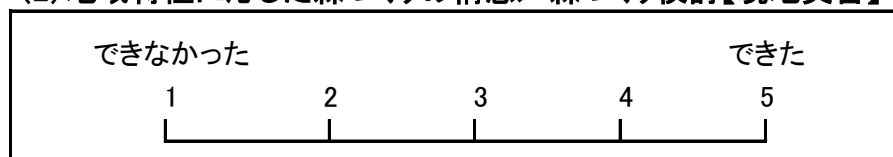
(1)森林資源把握・路網配置計画演習【演習】



平均: 4.0

- 1 (0名)
- 2 (1名) 操作があまり理解できていない
- 3 (1名) 現場経験はあるが、地図を読む力がまだ未熟だと感じた
- 4 (5名) GISとスマホを連動させた使い方を学べて良かった/QGISの復習ができた
- 5 (3名) QGISを使った路線選定手法を学べた/分かりやすい講義だった

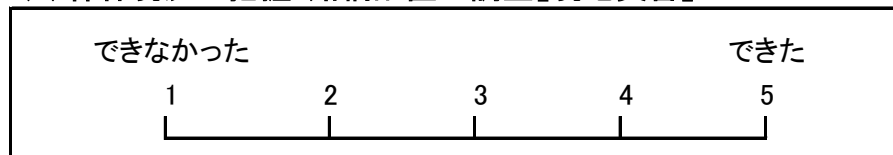
(2)地域特性に応じた森づくりの構想/森づくり検討【現地実習】



平均: 4.1

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (3名) 将来の姿を描くことの難しさを感じた
- 4 (3名) 隣接地でも森林の状況が大きく異なることが良く理解できた
- 5 (4名) 現地を見ながらの検討は腑に落ちるものがあった/適地適木の重要性を改めて感じた

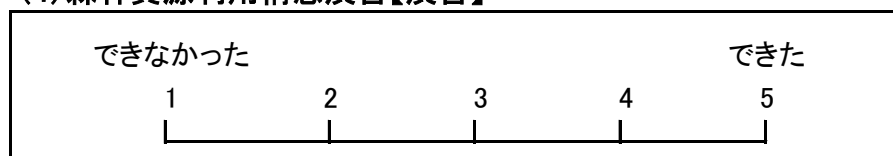
(3) 森林現況の把握・路網配置の調査【現地実習】



平均：4.4

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (0 名)
- 4 (5 名) 計画と現場との違いが理解できた／歩くことの大切さ、地域特性について勉強できた
- 5 (4 名) 配置計画の作成で I C T 技術の有効性を実感できた／路線選定時のポイントを学べた

(4) 森林資源利用構想演習【演習】



平均：3.8

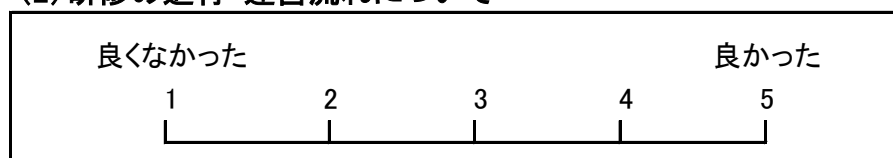
- 1 (0 名)
- 2 (1 名) Q G I S の操作が良くわからなかつた
- 3 (2 名) 限られた時間の中でまとめることは今後も必要になってくる／時間が少なかつた
- 4 (5 名) 意見交換や発表の中でいろいろな考え方を聞いた
- 5 (2 名) 新たな技術で計画を迅速に立案できた／相手の求めることを考えながら検討できた

IV 研修の進行・運営、研修設備等に関する評価

(1) 研修に係る事務局からの事前連絡等は十分できていましたか？

- 1 : できていた (10 名) 宿名の連絡が若干遅いと感じた
- 2 : できていない (0 名)

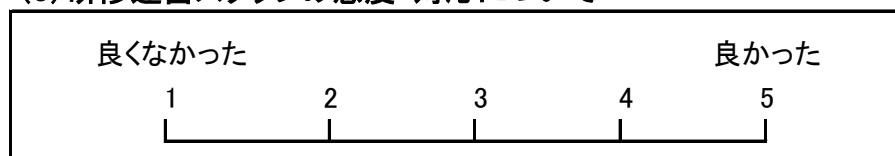
(2) 研修の進行・運営流れについて



平均：4.5

- 1 (0 名)
- 2 (1 名) 進行が早すぎた
- 3 (0 名)
- 4 (2 名)
- 5 (7 名) 行き詰まった時に適切にアドバイスをいただいた

(3) 研修運営スタッフの態度・対応について



平均：4.9

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (0 名)
- 4 (1 名)
- 5 (9 名) スムーズな運営だった／皆さん親切だった

(4) 今後、どのようなサポートや研修等があったら良いとお考えですか？

- ・ 今回の研修の継続的な研修
- ・ 研修後のサポート
- ・ 今回学んだことで疑問が出てきたら応えて欲しい
- ・ 川上から川下までの、それぞれの段階のICT研修
- ・ 普及員になったばかりの人向けの基礎的研修

(5) その他、自由に感想をお聞かせ下さい。

(研修の中で特に印象に残った講義があれば教えて下さい。)

- ・ ICTツールの可能性に触れられたが、それ以上に基本的な林学の知識の重要性に気付かされた
- ・ 班の皆さんの考え方がしっかりしていて参考になった
- ・ ICTに関心があり、寺岡先生にお会いできて嬉しかった
- ・ 現地実習はもう少し時間が欲しかった
- ・ もう少し民間人がいても良かったのではないかな
- ・ 研修で配布された資料のデータがほしい

V 林業成長産業化構想技術者育成研修Ⅱ(ブロック研修)の評価

- 40点未満 (0 名)
- 40点台 (0 名)
- 50点台 (1 名) 早すぎてついていけない
- 60点台 (1 名) 成長産業化との結びつきが弱い。フォレスター研修の伐採計画と重複
- 70点台 (0 名)
- 80点台 (2 名) 盛りだくさん過ぎた
- 90点台 (5 名) 研修時間がタイト。資料だけでも事前に目を通すことができれば良い
- 100点 (1 名)

平均： 85 点